

科目名	臨床実習Ⅱ Clinical EducationⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	135 3	開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。  
・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。

実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 付属治療院での勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 鍼灸整骨院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師、あん摩マッサージ指圧師

【到達目標】

①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。③問題抽出、問題解決力を身につける。④患者とのコミュニケーション力を身につける。⑤保険診療の仕組みについて理解する。

授業計画・内容	
1回目	付属治療院の使用方法について理解する。
2回目	患者に対する接遇(配慮)について理解する。
3回目	医療面接の目的と意義、医療面接を行い、流れを理解する。
4回目	医療面接の目的と意義、医療面接を行い、流れを理解する。
5回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
6回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
7回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
8回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
9回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
10回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
11回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
12回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
13回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
14回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
15回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行う
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学  
日本医事新報社 人体の正常構造と機能  
滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK  
文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ

科目名	臨床実習Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
	Clinical EducationⅡ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	135 3	開講区分	前期
学科・コース	鍼灸科					曜日・時限	

【授業の学習内容】

・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。

・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。

実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 付属治療院での勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 鍼灸整骨院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師、あん摩マッサージ指圧師

【到達目標】

①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。③問題抽出、問題解決力を身につける。④患者とのコミュニケーション力を身につける。⑤保険診療の仕組みについて理解する。

授業計画・内容	
16回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
17回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
18回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
19回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
20回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
21回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
22回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
23回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
24回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
25回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
26回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
27回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
28回目	問診、徒手検査、鍼灸技術の他者評価を行う
29回目	問診、徒手検査、鍼灸技術の他者評価を行う
30回目	問診、徒手検査、鍼灸技術の他者評価を行う
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学  
日本医事新報社 人体の正常構造と機能  
滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK  
文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ

科目名	臨床実習Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員
	Clinical EducationⅡ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	135 3	開講区分 曜日・時限
学科・コース	鍼灸科					前期

**【授業の学習内容】**

・臨床実習では「はり師・きゆう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゆう師」としての自覚を養う科目である。  
 ・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。

実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
 資格 はり師・きゆう師

実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
 資格 はり師・きゆう師

実務実績 付属治療院での勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
 資格 はり師・きゆう師

実務実績 鍼灸整骨院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
 資格 はり師・きゆう師、あん摩マッサージ指圧師

**【到達目標】**

①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。 ②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。 ③問題抽出、問題解決力を身につける。 ④患者とのコミュニケーション力を身につける。 ⑤保険診療の仕組みについて理解する。

授業計画・内容

31回目	問診、徒手検査、鍼灸技術の他者評価を行う
32回目	問診、徒手検査、鍼灸技術の他者評価を行う
33回目	問診、徒手検査、鍼灸技術の他者評価を行う
34回目	問診、徒手検査、鍼灸技術の他者評価を行う
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的の病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

**【使用教科書・教材・参考書】**

医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学  
 日本医事新報社 人体の正常構造と機能  
 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK  
 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ Clinical EducationⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。

・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。

実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 付属治療院での勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 鍼灸整骨院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師、あん摩マッサージ指圧師

【到達目標】

①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。 ②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。 ③問題抽出、問題解決力を身につける。 ④患者とのコミュニケーション力を身につける。 ⑤保険診療の仕組みについて理解する。

授業計画・内容	
1回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
2回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
3回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
4回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
5回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
6回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
7回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
8回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
9回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
10回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
11回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
12回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
13回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
14回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
15回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学  
日本医事新報社 人体の正常構造と機能  
滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK  
文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ Clinical EducationⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。

・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。

実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 付属治療院での勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師

実務実績 鍼灸整骨院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師、あん摩マッサージ指圧師

【到達目標】

①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。③問題抽出、問題解決力を身につける。④患者とのコミュニケーション力を身につける。⑤保険診療の仕組みについて理解する。

授業計画・内容	
16回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
17回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
18回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
19回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
20回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
21回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
22回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
23回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
24回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
25回目	施術を行った患者に対し、カンファレンスを行う
26回目	医療面接・検査を通じて病態把握を行い、十分な配慮を持って患者へ施術を行う
27回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
28回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
29回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
30回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学 日本医事新報社 人体の正常構造と機能 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ Clinical EducationⅡ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

- ・臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。
  - ・臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解する。
- 実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師
- 実務実績 付属治療院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師
- 実務実績 付属治療院での勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師
- 実務実績 鍼灸整骨院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う  
資格 はり師・きゅう師、あん摩マッサージ指圧師

【到達目標】

- ①診察から治療までの一連の過程を理解し、実践できる。 ②カンファレンスにて症例報告を行うことができる。 ③問題抽出、問題解決力を身につける。 ④患者とのコミュニケーション力を身につける。 ⑤保険診療の仕組みについて理解する。

授業計画・内容

31回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
32回目	シミュレーションを通じて問診、徒手検査、病態把握に基づく鍼灸施術の適不適の判断について評価を行う
33回目	はりきゅう施術の保険診療に関する歴史的背景について説明できる
34回目	はりきゅう施術の保険診療について説明できる
準備学習 時間外学習	準備学習 問診技法と徒手検査法の意義、方法を事前に学習すること 西洋医学的、東洋医学的病態把握について必要な知識について事前に学習すること 時間外学習 病態把握から施術に至るまでに必要な知識は国家試験合格にも繋がるため関連科目の横断的な考え方のトレーニングをすること
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

- 医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学
- 日本医事新報社 人体の正常構造と機能
- 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK
- 文光堂 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ